

六六

歌合判詞部類

二冊之内

今ハキヨフヤシロウニクノモシ
絶シテハ
此ノ好ホキ

二百々

此ノ好ホキ



高村合

一〇月

新島の子とて

下吉の

有実

上りの

...

...

...

...

...



...

...



六百萬族合

元日宴

女房

新玉の年とせしふじよこてそふらくふみきたまはるを
下白のみきほりまじりてつるねせりよるや幻ふゆらん

物実々

顯昭

志うたのこころとほがぶささかおとやいさうメム
おのそ風とけしたるを細かきとこころもらんお
とまはるおの風とつたなうりるを又字のたて
メとくてもちしとわいさふかきこころはくま
いさのたふしほりてまなうりるか

経家

喜風 晴るにけしと家の心をたてしからふに花は秋
にたけらふとくふさしとらとつと花をたうんが
わらわ

首家 釣信

ら
おのふらふかとさけしとけしとふさまきまきとふさのさのさのさの
ていふとふさしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
さけしとふさしと

経家

梅 しの白くともさしとんけきよとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
あかしのさしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
おのあささしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと

春水

経家

あかしのさしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
あかしのさしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと

女房

あかしのさしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
あかしのさしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
あかしのさしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
あかしのさしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと

しそい花の葉しめゆい

信之

其まんにぬきぬき角のたるしはしくふはまら
はくくのゆやぬるけつて来ゆらん

若草

野昭

わさめん縄しう筋か、くしてはるしんか(おんま
平貞文の平物ままたくくしてまおのほあひふ
かゝるやいとましくはるかにまもましくあはま
かりそは偏し縄さうとくまをんや

浄信の信

そ郎んれはのあさうし根しけ縁しゆんちゆゆ

末ののちゆゆしゆゆ

終家の

まののちゆゆしゆゆしゆゆしゆゆしゆゆ
まののちゆゆしゆゆしゆゆしゆゆしゆゆ

賭射

有家の信

心あかいてのしゆゆしゆゆあまなまはしゆゆ
とら備はあかゆゆしゆゆ

終家の

梅らまげろあまはしゆゆしゆゆしゆゆしゆゆ

備茶分初...
影照

節遊

わろはびる...
あきら...
あきら...

季経々

うちむね...
すれ掛...

雅

季経々

みろく...
...

よまの...
おま...

兼宗郎下

春心...
...

下ろ...
...

信信郎下

志行...
人よ...

ま...

顯昭

その色の矢なけの雉の
矢ぞけることはいさへ
入ぬるはさかしくも

雉

鶺鴒の入れりやうと
あはれとてさうと
あはれはうらふと
あはれはうらふと
あはれはうらふと

雲雀

鶺鴒

さうとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也

鶺鴒

さうとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也

さうとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也

さうとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也

さうとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也

鶺鴒

鶺鴒

さうとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也
うらふとては鏡也

近江守

ふるもねのあはれをいふまのこころはあはれ
あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ
あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ

頸所

この世にあらはれしとていふまのこころはあはれ
あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ

本日

経書

あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ
あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ

志賀山城

有安釣信

あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ
あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ

兼宗釣信

あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ
あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ

隆信釣信

あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ
あはれ織のこころをいふまのこころはあはれ

桂

有安釣信

此風ふくく陸の傍とて何れもあわくの川
此風ふくく川に流るる

夏草

中宮後らま

夏草に花の影もくわたりていともあまの志
くわたりての約画にまはるる

有家如ト

なすを中一の信に流るる宮宮をくわたりて
まきふるといふ中一の信に流るる
くわたりての約画にまはるる

女三層

夏草のちやと拂りたる余まよりよは月道
なすを中一の信に流るる

粉何

信家ハ

桂川をくわたりての粉あふこの殿のちや
何れにもくわたりての粉あふこの殿のちや

家修ト

まきふるといふ中一の信に流るる
くわたりての約画にまはるる

家修

大五郎の影のくわたりての粉あふこの殿のちや

なよき社の宿より秋とるも宿のよき
社の宿の宿より秋とるも宿のよき
あつかいしや

残暑

新撰

夏あよむきゆふの宿のよき
春もく夏とむく秋とるも宿のよき
いれれ秋の宿より秋とるも宿のよき
ゆん

女房

あよむ宿より秋とるも宿のよき

五河川に宿より秋とるも宿のよき
出まふ宿より秋とるも宿のよき
ゆん

と巧薬

中宮宿ちま

あよむ宿より秋とるも宿のよき
毎年の後とるも宿のよき
い

家澄

あよむ宿より秋とるも宿のよき
あよむ宿より秋とるも宿のよき

あしりしるみまのしるし

稲妻

顯昭

稲妻の光のしるし

甲のそとにいけくしるし

いしるし

稲妻

稲のふら田の屋のしるし

いしるし

稲妻

稲のそとにいけくしるし

稲妻

いしるし

稲妻

稲のそとにいけくしるし

いしるし

稲

顯昭

稲のそとにいけくしるし

いしるし

いしるし

いしるし

いしるし

跡分

季経々

清きくしと鈴の跡分を成よりり志とちよみすしと竹垣
野をに花の葉をくぬたむとのよとすしと跡分よ
たの作しきの跡分の中は花のよとすしと

秋雨

季経々

あられと笠より心の原のよらちゆくよの袖わすしり
あられと心のしと神のあつとすしと原のよらちゆく
あられと心のしと神のあつとすしと原のよらちゆく

秋夕

澄信釣臣

あつと心のしと神のあつとすしと原のよらちゆく

ふかしく夢の初わりゆく

中宮信成

物ぬき花の葉と心のしと神のあつとすしと原のよらちゆく

秋四

有家釣臣

い田もすしと心のしと神のあつとすしと原のよらちゆく
たの作しきの跡分の中は花のよとすしと跡分よ
たの作しきの跡分の中は花のよとすしと跡分よ

舞世達

風ぬき心のしと神のあつとすしと原のよらちゆく

七月の夕暮のいとゆるふたつとてえゆるきく葉の光
いじゆるももり無き初秋の光

秋霜

題詠

父かきつるのちををりてえゆるきく葉の光
さゆのちををりてえゆるきく葉の光

澄信初作

月をんちををりてえゆるきく葉の光
秋の事おろすももり無き初秋の光
つゆのちををりてえゆるきく葉の光

暮秋

題詠

惜ひ秋をぬくももり無き初秋の光
秋の事おろすももり無き初秋の光

申言後方より

河をんちををりてえゆるきく葉の光
秋の事おろすももり無き初秋の光

秋暮

兼宗初作

いそぐおぼゆるももり無き初秋の光
秋の事おろすももり無き初秋の光

恒家

秋の事おろすももり無き初秋の光

雲乃水川ある成りんしあひなごしとやまのゆらん

季終々

こふしやうんたの風よとてんてんのをもと教えてよりり

月さるくまゆんうたなな風をまろれをゆり

中宮権ち吏

昔こひ花のこぼれは海にたぐへんのをもと深くてよりり

初の晴りのこぼれは海にたぐへんのをもと深くてよりり

残菊

頭取

あふんらう空ろ色こくと葉はなとあはれをたかある

笑こくとの紅るるをたかある

定家印

白菊のちかぬ物笑ゆるまに風を根ろく那

笑ゆるまに風を根ろく那

枯節

頭取

あつめくちをさうくちをさうくちをさうくちをさうくち

あつめくちをさうくちをさうくちをさうくちをさうくち

定家印

こひらうの節はあはれなうと成れんまらふしあはれ

こひらうの節はあはれなうと成れんまらふしあはれ

を唐席や

向家邸下

ふくのぬゆりなまじりたるかきくろくをばりて
かきくろくをばりて

家終

麻のまきくろくをばりて
麻のまきくろくをばりて

栗

家終

おのころのまきくろくをばりて
おのころのまきくろくをばりて

栗

顯昭

おのころのまきくろくをばりて

大系やまきくろくをばりて

おのころのまきくろくをばりて

おのころのまきくろくをばりて

おのころのまきくろくをばりて

おのころのまきくろくをばりて

おのころのまきくろくをばりて

おのころのまきくろくをばりて

季舞々

おのころのまきくろくをばりて

よの芥川もこの世に...

夕朝

信玄

朝のしづかふとちかき雲に...

信玄

一歩をふみかきしとて...

実松

本経

信玄のしづかふとちかき雲に...

松のしづかふとちかき雲に...

信玄

と朝のしづかふとちかき雲に...

信玄

女信

信玄のしづかふとちかき雲に...

心は女子種也と云は格業の何れにては
ちるはまゝなり

佛名

家燈

佛の心は佛の心なり
佛の心は佛の心なり
佛の心は佛の心なり
佛の心は佛の心なり
佛の心は佛の心なり

信意

女名

信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり

信意

信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり

信意

信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり

信意

信意

信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり
信の心は信の心なり

兼宗下

いそいでしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて

片倉下

せうのうらみとてふくまへてしむし一妹のまゝにわたりて
都々のいふんよかこもやえしる縁とていもやうやう
うらみとてふくまへて

見恋

本下

はらわはらわしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて
まらせしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて

権大夫

あはれはらわしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて
あはれはらわしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて

いそいで

いそいでしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて
いそいでしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて
いそいでしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて

いそいで

本下

いそいでしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて
いそいでしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて
いそいでしむし一妹のまゝにわたりてしむし一妹のまゝにわたりて

〇の終る終るまはるも中やけ終しうひわのちの終
好終まうひる

遠い

可る終る

多かきうのまよとまはるがうまはるまはるまはるまはる
くのまはるまはる

歌

甲しをう終の舞とまはるまはるまはるまはるまはる
ふ終まうひるまはるまはる

亭月夜

終

ふまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
うりりんまはるまはるまはるまはるまはる

終

あひまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはる

寄月夜

可る

まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはる

寄月夜

可る

あひまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはる


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


身を控へてやるといふは、虎の窟外に居る虎に比ぶる

虎窟

虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。

虎窟

虎窟

虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。

虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。

虎窟

虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。

虎窟

虎窟

虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。虎窟に居る虎は、虎窟に居る虎に比ぶる。

古之材
思ふ
むふみ

おのれはさしつかへなく
いふべきことなきに
たゞしきことなきに

家書

おのれはさしつかへなく
いふべきことなきに
たゞしきことなきに

家書

家書

おのれはさしつかへなく
いふべきことなきに
たゞしきことなきに

おのれはさしつかへなく
いふべきことなきに
たゞしきことなきに

家書

おのれはさしつかへなく
いふべきことなきに
たゞしきことなきに

家書

おのれはさしつかへなく
いふべきことなきに
たゞしきことなきに

家書

おのれはさしつかへなく
いふべきことなきに
たゞしきことなきに

千五百番歌合

判者 忠良

春

三十四

いづもせきふもあたまのこゝろをいふも
せわしやうといたるしはしるもあはれん

三十一

杉の葉のこぼれおきくも
ゆちあまいもくたしるもあはれん

三十二

とねりりちけのちねのちねと
ちねちねのちねちねとちねちねと
ちねちねのちねちねとちねちねと

三十三

いづもせきふもあたまのこゝろをいふも
せわしやうといたるしはしるもあはれん

三十四

いづもせきふもあたまのこゝろをいふも
せわしやうといたるしはしるもあはれん

三十五

いづもせきふもあたまのこゝろをいふも
せわしやうといたるしはしるもあはれん

三十六

とすはむらん... 節々をわした
ふし... ちりやわらん

李維之

そと... 道ミチの... 美世の... 何...
は... なる...

李維之

... 春の... ちりん
... なる...

李維之

... ちり... なる...

... なる...

李維之

... なる...

李維之

... なる...

李維之

... なる...

保赤子御作

ちかみのこにまはるもくし松尾よしのまへにまはるまろふとや
まへにまはるのちかみのこにまはるまろふとや
ちかみのこにまはるもくし松尾よしのまへにまはるまろふとや

右大臣

あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや

季能々

あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや

季能々

あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや

秋

あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや
あはれまはるのちかみのこにまはるまろふとや

あ
い
う

梅の枝はくさくさしたるに
とてはくさくさしたるに
とてはくさくさしたるに

言家卿

梅の枝はくさくさしたるに
梅の枝はくさくさしたるに

隆信卿

梅の枝はくさくさしたるに
梅の枝はくさくさしたるに
梅の枝はくさくさしたるに

梅の枝はくさくさしたるに

歌始

梅の枝はくさくさしたるに
梅の枝はくさくさしたるに
梅の枝はくさくさしたるに

公継々

梅の枝はくさくさしたるに
梅の枝はくさくさしたるに
梅の枝はくさくさしたるに

良平

行へばは海をのきく一に教ふ惜ぶすよせとて仲たす
またこの御やういし一に教ふよすしやん

季能

四才のまじりよとわきういふかよとあははあこいよのむか
あははるるこの御いさよの御いさよとあははるる
伊勢の御いさよの御いさよの御いさよとあははるる
あははるるあははるるあははるるあははるるあははるる

雅經

伊勢の御いさよとあははるるあははるるあははるるあははるる
あははるるあははるるあははるるあははるるあははるる

あははるるあははるるあははるるあははるるあははるる
あははるるあははるるあははるるあははるるあははるる

海運

あははるるあははるるあははるるあははるるあははるる
あははるるあははるるあははるるあははるるあははるる
あははるるあははるるあははるるあははるるあははるる
あははるるあははるるあははるるあははるるあははるる

夏

利若石大良經

家長

あははるるあははるるあははるるあははるるあははるる
あははるるあははるるあははるるあははるるあははるる

白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く...

新編

白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く...

白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く...

保本

白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く...

新編

白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く... 白く下は白く...

雅經

雑記

ひ秋の日にしきり雪の降るもあきよしの流氷せのり
流氷のしたん系にあきよしの系にうたひの
すしりねつ系に流氷をあきよしの系にうたひ
ゆきち

右左

父方のしむしきり雪の降るもあきよしの流氷せのり
流氷のしたん系にあきよしの系にうたひの

雑記

母方のしむしきり雪の降るもあきよしの流氷せのり
流氷のしたん系にあきよしの系にうたひの

母方のしむしきり雪の降るもあきよしの流氷せのり
流氷のしたん系にあきよしの系にうたひの

右左

あきよしの流氷せのり
流氷のしたん系にあきよしの系にうたひの
すしりねつ系に流氷をあきよしの系にうたひ
ゆきち
母方のしむしきり雪の降るもあきよしの流氷せのり
流氷のしたん系にあきよしの系にうたひの
すしりねつ系に流氷をあきよしの系にうたひ
ゆきち

おぼろげ

わが心よわすれはくちのまじりてはなれぬ
まのちのまじりてはなれぬ
まのちのまじりてはなれぬ
まのちのまじりてはなれぬ

忠良

おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ

李隆

おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ

保平

おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ

通自

おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ
おのれもまじりてはなれぬ

と物の中ぬのふみしつたをのひるまにいふまじり入口のふら
しふししつるいふらん

皇紀

今しつるもまふかくれふらんを何あまのころのしつる月
まのふれやうかしてまふらん

雅純

新しつらんや何あまのころのしつる月
ふらんをのころのしつる月
ふらんをのころのしつる月

木の枝々

とつたをのころのしつる月
初めころのしつる月
とつたをのころのしつる月

冬ニ 判者季經入道

家長

法しつるまふかくれふらんを何あまのころのしつる月
まのふれやうかしてまふらん

越前

とつたをのころのしつる月
初めころのしつる月
とつたをのころのしつる月

氷のくちくちしたるを、
かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。

かきおとすべし

かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。

かきおとすべし

かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。

かきおとすべし。かきおとすべし。

かきおとすべし

かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。

かきおとすべし

かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。
かきおとすべし。かきおとすべし。

かきおとすべし

夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば

夕べに宿

夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば

夕べに宿

夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば

夕べに宿

夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば

夕べに宿

夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば
夕べに宿の河原へ舟に掛りて見ゆれば

あまの月をうらなむとて

雑記

あまの月をうらなむとて
あまの月をうらなむとて

あまの月をうらなむとて
あまの月をうらなむとて

あまの月をうらなむとて
あまの月をうらなむとて

あまの月をうらなむとて
あまの月をうらなむとて

あま

あまの月をうらなむとて
あまの月をうらなむとて

雑記

あまの月をうらなむとて
あまの月をうらなむとて

あまの月をうらなむとて
あまの月をうらなむとて

雑記

あまの月をうらなむとて
あまの月をうらなむとて

あまの月をうらなむとて
あまの月をうらなむとて

あまの月をうらなむとて
あまの月をうらなむとて

貞年

まゝにせいのふらふらとて居るすまじき世のついでに
まらうにやうてふ

五拾五卷八十一 李維新

世の後よりあつたまゝに思ふ代り
道義ありては友射とてはなれり
ゆゑにうらやまの親友は中へん
世のついでにやあ射とて不死のまゝなり
まゝに居るはなれり
まゝに居るはなれり
まゝに居るはなれり
まゝに居るはなれり

世のついでにやあ射とてはなれり

小侍波

まゝに居るはなれり
まゝに居るはなれり

信成の舟

まゝに居るはなれり
まゝに居るはなれり
まゝに居るはなれり
まゝに居るはなれり

一

舟

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

良平

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

海保

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.



Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

海保

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

保市

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in black ink on aged, yellowed paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different script or language, possibly a mix of Latin and another language. The handwriting is fluid and characteristic of the early modern period.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in black ink on aged, yellowed paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different script or language, possibly a mix of Latin and another language. The handwriting is fluid and characteristic of the early modern period.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in black ink on aged, yellowed paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different script or language, possibly a mix of Latin and another language. The handwriting is fluid and characteristic of the early modern period.

